

## V. 田辺市

|               |   |
|---------------|---|
| 人口            | 85,646 人 (H12 国調) →82,499 人 (H17 国調)  |
| 高齢化率          | 22.7% (H12 国調) →25.2% (H17 国調)  |
| 面積            | 1,026 km <sup>2</sup>   |
| 地形等           | 田辺市は紀伊半島の南西部、和歌山県の南部に位置し、西よりの海岸線から東に向かって平野部、広大な山地部となっている。集落・市街地は西よりの海岸に面した平野部を中心としている。2005 年の広域合併により、奈良県に面し、山林部分が約 9 割を超える近畿最大の市となった。 |
| 交通政策担当部署      | 企画広報課   |
| 地域公共交通政策の理念   | 住む人の幸せと過疎地域の活性化に人の移動（交通）の確保は欠かすことが出来ない。   |
| 各種計画・構想等の策定状況 | 地方公共交通の現状と再生に向けての指針調査研究委員会（平成 21 年度のみ）<br>田辺市における公共交通施策の再構築に関する調査業務報告書<br>地域公共交通会議（開催済）<br>福祉有償運送運営協議会（開催済）                           |

### 1、日常生活を支える施設の分布状況

#### 1.1 医療機関

- ・ 77（インターネットタウンページ 2010 年 3 月現在）
- ・ 主要な病院は、紀南病院、南和歌山医療センター。いずれも旧田辺市に立地している
- ・ 旧田辺市内には民間の医療機関多数、旧町村部には診療所がある
- ・ 旧龍神村、旧大塔村には患者送迎バス運行（無料）
- ・ 旧龍神村、旧大塔村、旧本宮町では外出支援事業（月 2 回地区内への医療機関送迎）を実施

#### 1.2 主な小売機能

- ・ 田辺駅前を中心とするエリアに商店街あり
- ・ 大規模スーパーとしては、パピリオンシティ田辺店、オーシティ田辺店、
- ・ 中規模のスーパーとしてグルメシティ 4 店舗（田辺 SC、東陽、万呂、明洋）プライスカット田辺下万呂店、エバグリーン田辺元町店に立地
- ・ 主要スーパーは旧田辺市内に立地。その他小規模スーパーは各地に立地
- ・ 旧町村中心部には A-Coop などのスーパーが立地（中辺路、本宮、大塔）。龍神村は地元のスーパーやあんくるジョヴィ（ドラッグストア+スーパー）が立地

- ・コンビニは旧田辺市内を中心に立地。旧町村エリアには大手コンビニは無し

### 1.3 主な教育機関

- ・中学校 16（県立中高一貫中学は除く）、小学校 29（休校 1）
- ・旧龍神村エリア 4 小学校・1 中学校、旧中辺路町エリアの 3 小学校・1 中学校、旧大塔村エリアの 2 小学校・1 中学校、旧本宮町エリアの 2 小学校・2 中学校ではスクールバスを運行

### 1.4 主な観光施設

- ・旧田辺市では扇ヶ浜海水浴場、天神崎。旧龍神村、旧本宮町では温泉の名所
- ・市内には熊野古道があり、ハイキング客などが路線バスを利用

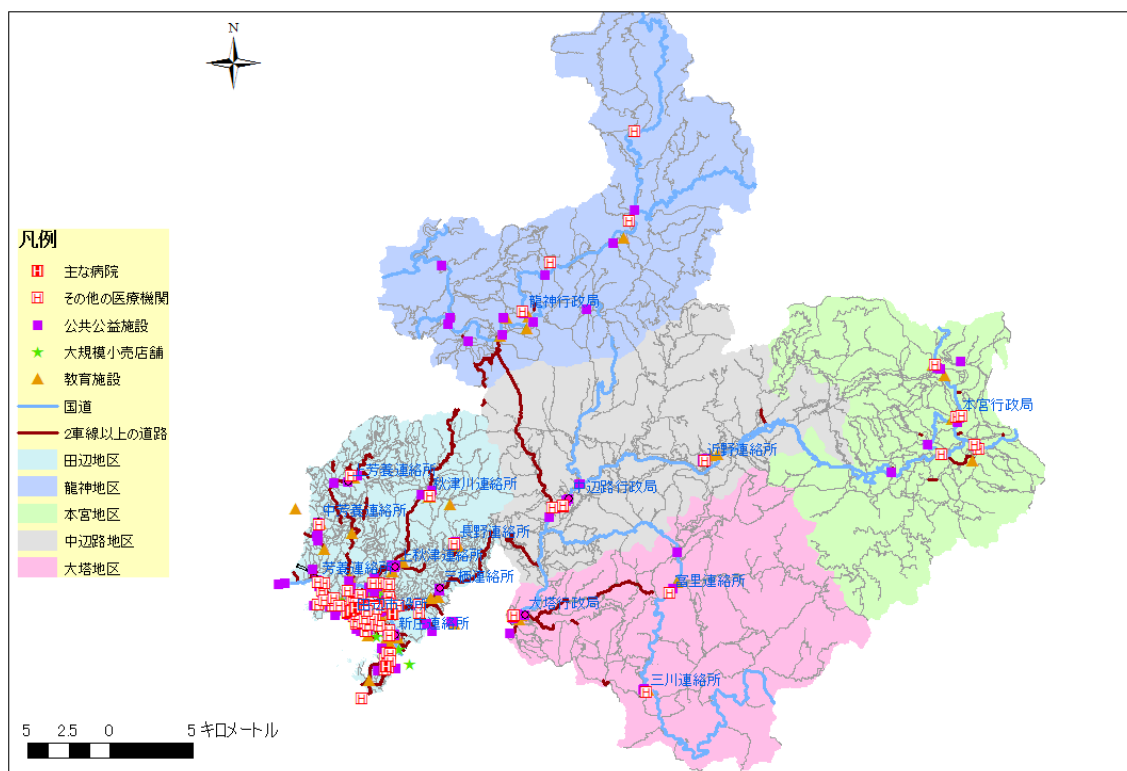


図 田辺市における各種施設の分布状況

出所：辻本作成

注：道路網は平成 14 年 11 月発行の国土地理院「数値地図 25000（空間データ基盤）和歌山」による。各種施設の情報は平成 21 年現在。

## 2、田辺市の地域公共交通体系

- ・JRきのくに線（芳養、紀伊田辺、紀伊新庄）
- ・タクシーは旧田辺市を中心に多数営業。旧大塔村以外の旧町にはタクシーが常駐（1～2台）
- ・住民バス（個別詳細は次項に記述）を旧町村エリアでは運行。主に旧町村中心部と集落を結ぶ路線が多く、予約制を設けている路線も多い。住民バスでは各地区での愛称化や有料広告掲載などの取り組みが行われている。旧田辺市エリアでは運行なし
- ・路線バス（明光バス、龍神バス、熊野交通、奈良交通の個別詳細は別紙に記載）は駅・病院と市街地・旧町村中心部・周辺町村中心部を結ぶ路線を軸に運行している。

## 3、地域公共交通政策とその成果

### 3.1 主な施策

#### 3.1.1 福祉有償運送

|                 |   |
|-----------------|---|
| 背景と目的           | 旧本宮町時代社会福祉協議会が実施していた移送サービスを制度化すべく、平成18年11月よりNPO法人あすなる会が福祉有償運送を実施。本宮地区社協が実施している介護タクシーと連携を行っている。  |
| 事業概要<br>(インプット) | <p>&lt;許可&gt;<br/>道路運送法第79条に基づき田辺市福祉有償運送運営協議会が審査を行い近畿陸運局に運転手及び車両を登録</p> <p>&lt;利用対象者&gt;<br/>要介護認定者・要支援認定者・身体障害者手帳の保持者、その他肢体不自由者、内部疾患、精神障害、知的障害等により公共交通機関の利用が困難な者であって、田辺市運営協議会に利用申請が認められた者。また、骨折等で一時的な認可が認められる場合がある</p> <p>&lt;料金&gt;<br/>旧本宮町内…走行5分以内は片道250円、5分を越える距離は片道500円<br/>旧本宮町外…新宮市、旧田辺市内、白浜町、上富田町までは片道3,000円<br/>那智勝浦町、御浜町、太地町までは片道4,000円<br/>串本町、古座川町、熊野市までは片道5,000円<br/>待機料金…1時間までは500円で、以後10分ごとに50円の加算</p> <p>&lt;運転手&gt;<br/>福祉有償運送運転協力者講習（2日間）を受講しさらに、適正診断テスト等の受講と厳しいカリキュラムを経た者</p> <p>&lt;車両&gt;<br/>車椅子リフトアップ車輛(ハイエース)1台、助手席乗降補助装置付き車輛(タン</p> |

|        |         |             |            |
|--------|---------|-------------|------------|
|        | ト)1台    |             |            |
| アウトプット |         | 実績 (08年度)   | 目標 (設定の場合) |
|        | 利用者数    | 652人/4月~2月  | 設定なし       |
|        | 地域住民の参画 | 福祉有償運送運営協議会 | 設定なし       |
|        | その他 ( ) | 特になし        | 設定なし       |
|        |         |             |            |

### 3.1.2 住民バス (本宮)

|                 |   |                         |            |
|-----------------|---|-------------------------|------------|
| 背景と目的           | 旧本宮町時代「本宮町べんりバス」として2000年4月に事業開始。旧町内を曜日によっては走る地域を変えながら運行している。運行は熊野交通へ委託。熊野古道の世界遺産登録以降、発心門王子へ向かう便が増設され、古道利用客が増えている。今後の愛称は「  |                         |            |
| 事業概要<br>(インプット) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運行主体は田辺市 ・ 車両は市所有 ・ 年末年始を除き毎日運行</li> <li>・ うらら館 (診療所・福祉施設) を中心に運行</li> <li>・ 1回200円 (障害手帳所持者半額、高校生以下無料)</li> <li>・ 運行は基本ジャンボタクシータイプ1台。利用者が多い場合は別の車両に</li> <li>・ 「上番・中下番・発心門線」1往復 (月曜)、「上切原・切畑・大居線」1往復 (火曜)、「栗垣内・曲川線・小津荷・高山線」1往復 (水曜)、「福寿・菊水線」1往復 (木曜)、「小森・一本松線」1往復 (金曜)、「請川・上大野線」1往復 (月~金曜、水曜のみ2本増)、「伏拝王子・発心門王子線」1往復 (毎日)</li> <li>・ 一部路線は「請川」まで延伸運行 (新宮行き路線バス接続)</li> </ul> |                         |            |
| アウトプット          |   | 実績 (08年度)               | 目標 (設定の場合) |
|                 | 利用者数  | 3,020人/月                | 設定なし       |
|                 | 運行経費  | 委託料600万円/年<br>運賃収入58万/年 | 設定なし       |
|                 | 地域住民の参画   | 特になし                    | 設定なし       |
| その他 ( )         | 特になし  | 設定なし                    |            |

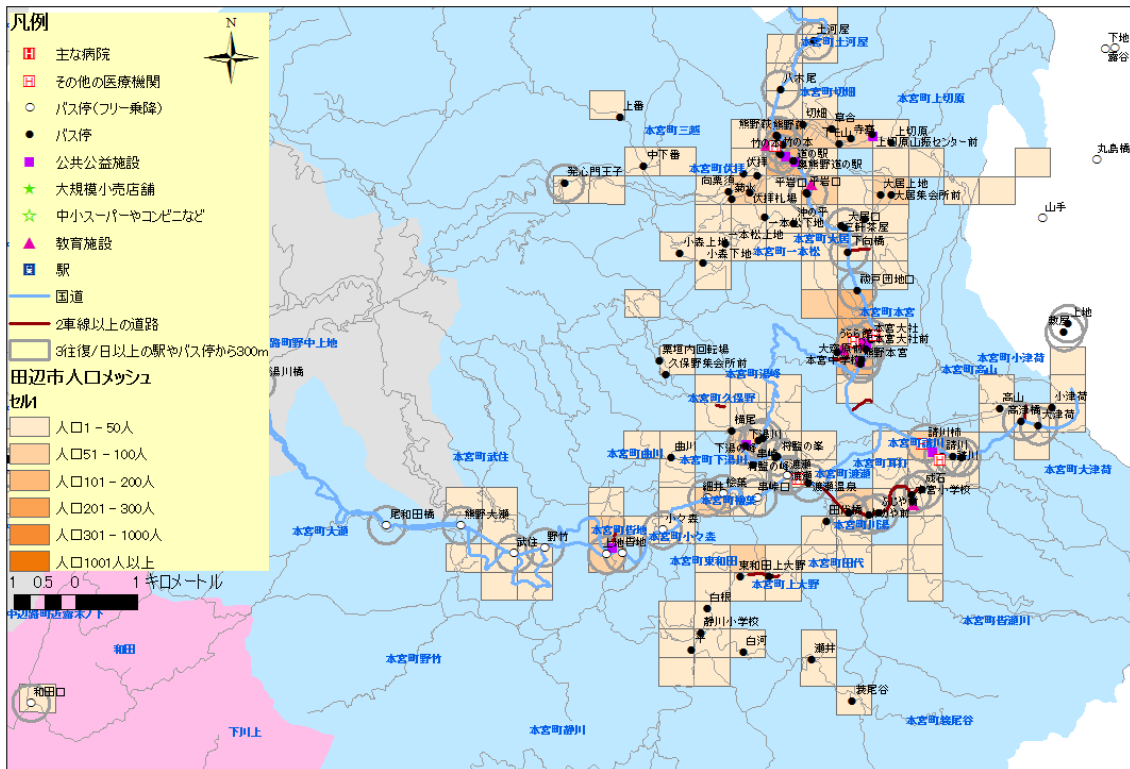


図 田辺市における公共交通空白地帯の分布 (本宮地区)

出所：辻本作成 (中辺路、龍神、大塔、田辺の各地区とも)

注：人口メッシュは H17 国勢調査による。道路網は平成 14 年 11 月発行の国土地理院「数値地図 25000 (空間データ基盤) 和歌山」による。各種施設や駅、バス停の情報は平成 21 年現在。人口メッシュのかかっていない部分は無人である。

### 3.1.3 住民バス（中辺路）

|                 |   |                         |           |
|-----------------|---|-------------------------|-----------|
| 背景と目的           | 旧中辺路町時代「中辺路町住民バス」として2001年4月に事業開始。旧町内を曜日によって走る地域を変えながら運行している。一部の地域ではデマンド運行を行っている。運行は純正タクシーへ委託。   |                         |           |
| 事業概要<br>(インプット) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運行主体は田辺市 ・車両は市所有 ・年末年始を除き毎日運行</li> <li>・栗栖川バス停を中心に運行 ・運行はジャンボタクシータイプ</li> <li>・1回200円（障害手帳所持者半額、高校生以下無料）</li> <li>・「小松原・温川・内井川線」（月・木曜）、「水上線」（月・木曜／予約制）、「高原線」（月・木曜／予約制）、「石船・大内川線」（火・金曜／予約制）、「西谷線」（火・金曜／予約制）、「峰線」（火・金曜／予約制）、「近野線」（水曜）</li> <li>・近野線のみ1本、あとはすべて3本（ループ運行、往復運行も兼ねて）</li> <li>・予約便は第1便は前日までに、2便以降は出発の1時間前に電話予約</li> </ul> |                         |           |
| アウトプット          |   | 実績（08年度）                | 目標（設定の場合） |
|                 | 利用者数  | 1,794人／年                | 設定なし      |
|                 | 運行経費  | 委託料600万円／年<br>運賃収入38万／年 | 設定なし      |
|                 | 地域住民の参画   | 特になし                    | 設定なし      |
| その他（ ）          | 特になし  | 設定なし                    |           |

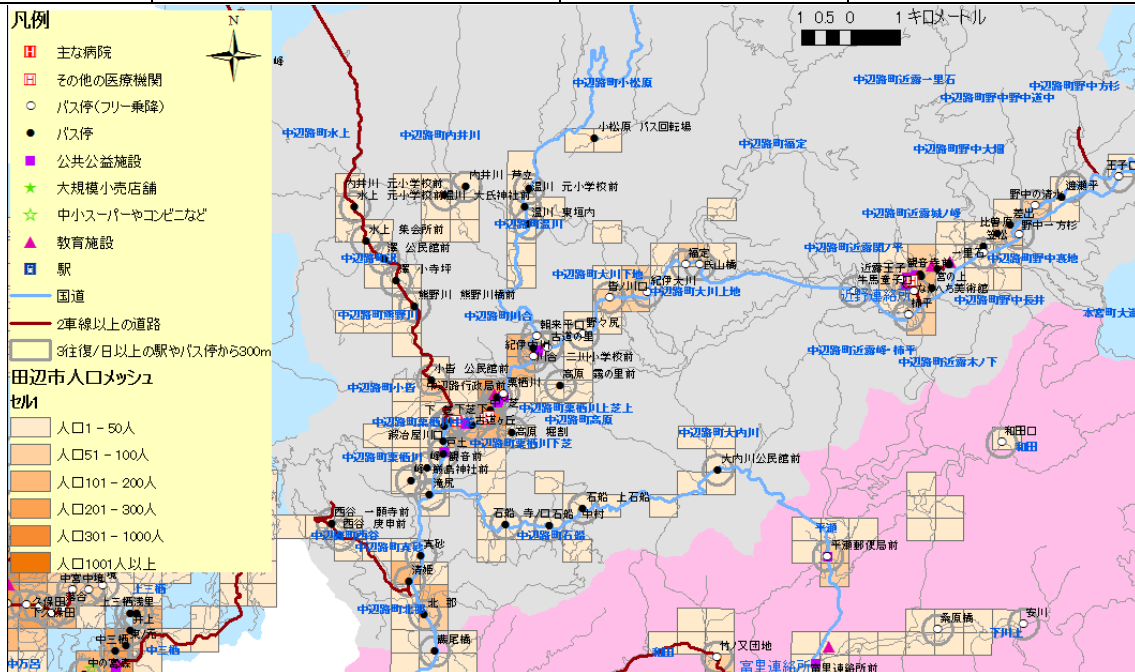


図 田辺市における公共交通空白地帯の分布（中辺路地区）

### 3.1.4 住民バス（龍神）

|                 |   |                            |           |
|-----------------|---|----------------------------|-----------|
| 背景と目的           | 2008年9月末で御坊南海バス福井線の田辺市龍神村・福井～日高川町・川原河間を廃止するのに伴い、地域住民の生活手段を確保するべく2008年10月から運行を開始。運行に当たっては龍神村福井地区～中心部の龍神村西地区を延伸させ、龍神バスと接続した運行形態とした。運行は龍神自動車に委託。   |                            |           |
| 事業概要<br>(インプット) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運行主体は田辺市 ・車両は市所有 ・年末年始、土休日を除き運行</li> <li>・運行はジャンボタクシータイプ(15人乗り)1台</li> <li>・1回200円(障害手帳所持者半額、高校生以下無料)</li> <li>・「龍神日高川線」(龍神行政局～川原河)3往復</li> <li>・日高川町は費用の1割弱を負担 ・高校生の通学利用が高い</li> </ul> |                            |           |
| アウトプット          |   | 実績(08年度)                   | 目標(設定の場合) |
|                 | 利用者数  | 3,408人/年<br>(08年10月～09年9月) | 設定なし      |
|                 | 運行経費  | 550万円/年<br>(田辺市分/バス購入費除く)  | 設定なし      |
|                 | 地域住民の参画   | 特になし                       | 設定なし      |
| その他( )          | 特になし  | 設定なし                       |           |

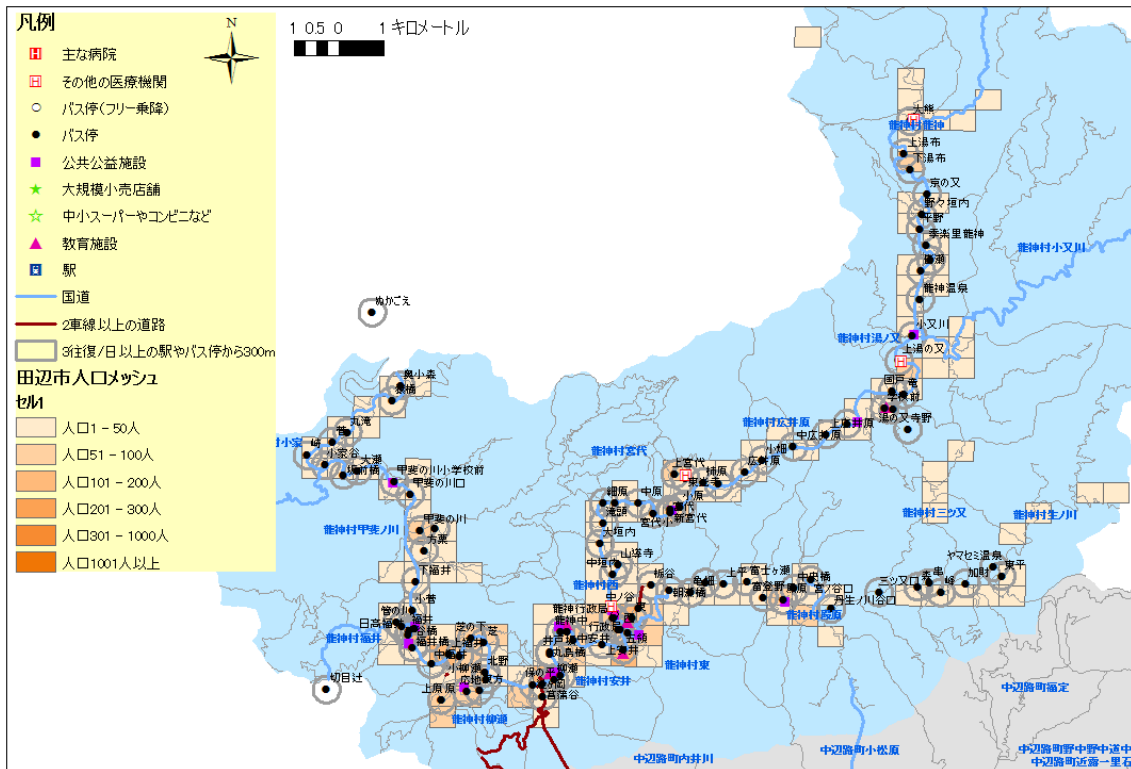


図 田辺市における公共交通空白地帯の分布（龍神地区）

### 3.1.5 住民バス（大塔）

|                 |   |                               |           |
|-----------------|---|-------------------------------|-----------|
| 背景と目的           | 2009年9月末で明光バス三川線と富里線を廃止するのに伴い、生活交通手段を確保するために2009年10月より運行を開始。運行にあたってはこれまで公共交通が無かった木守・五味地区にも運行するなど、交通空白地域がなくなるように運行を行っている。全便予約制。運行は大塔交通社に委託。  |                               |           |
| 事業概要<br>(インプット) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運行主体は田辺市 ・車両は市所有 ・年末年始、土休日を除き運行</li> <li>・運行はジャンボタクシータイプ（15人乗り）3台</li> <li>・鮎川新橋で田辺方面の路線バスに乗り換え</li> <li>・1回200円（障害手帳所持者半額、高校生以下無料）</li> <li>・「富里線」、「熊野川・向山線」、「三川木守線」3本（往復型）、全便予約制</li> <li>・予約便は第1便は前日までに、2便以降は出発の1時間前に電話予約</li> </ul> |                               |           |
| アウトプット          |   | 実績（08年度）                      | 目標（設定の場合） |
|                 | 利用者数  | 250人/2ヶ月(08年10月～11月)          | 設定なし      |
|                 | 運行経費  | 1,498万円/年<br>(バス3台など初期導入費用含む) | 設定なし      |
|                 | 地域住民の参画   | 特になし                          | 設定なし      |
|                 | その他（ ）  | 特になし                          | 設定なし      |

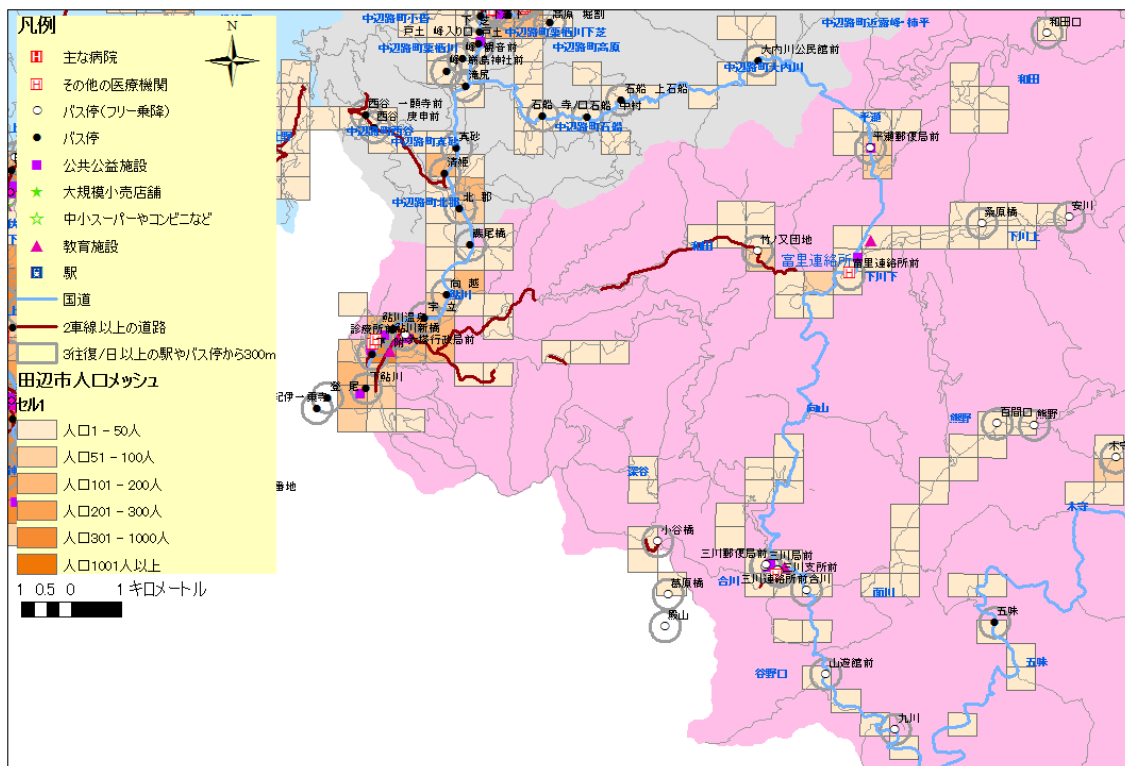


図 田辺市における公共交通空白地帯の分布（大塔地区）



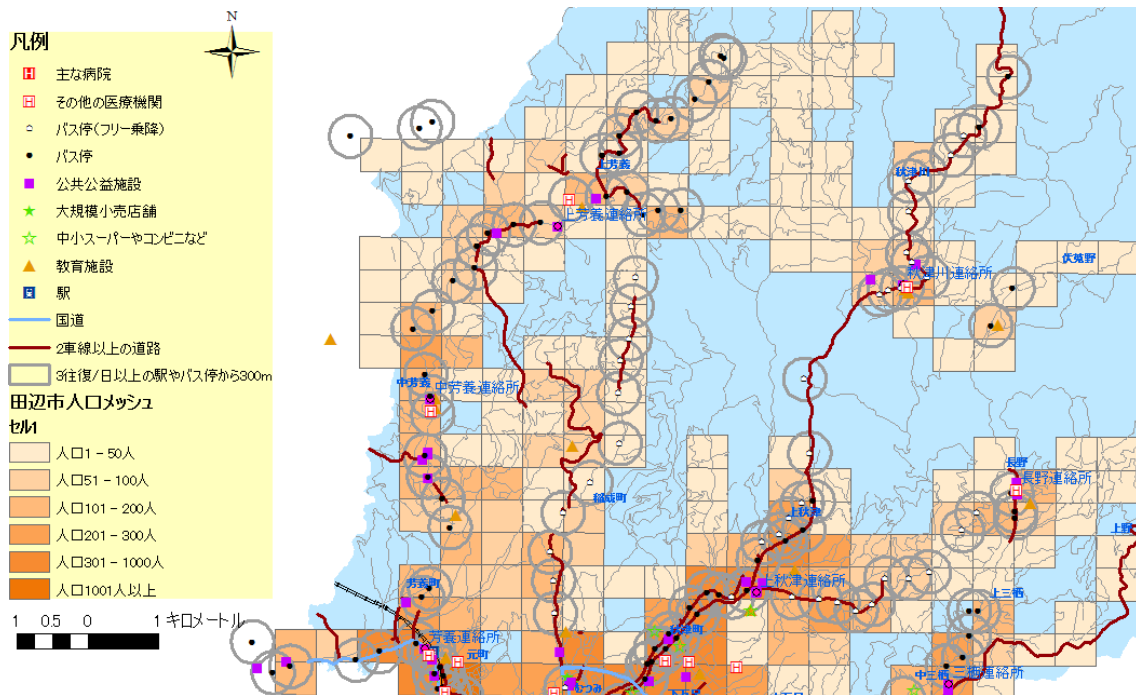


図 田辺市における公共交通空白地帯の分布 (田辺地区北部)

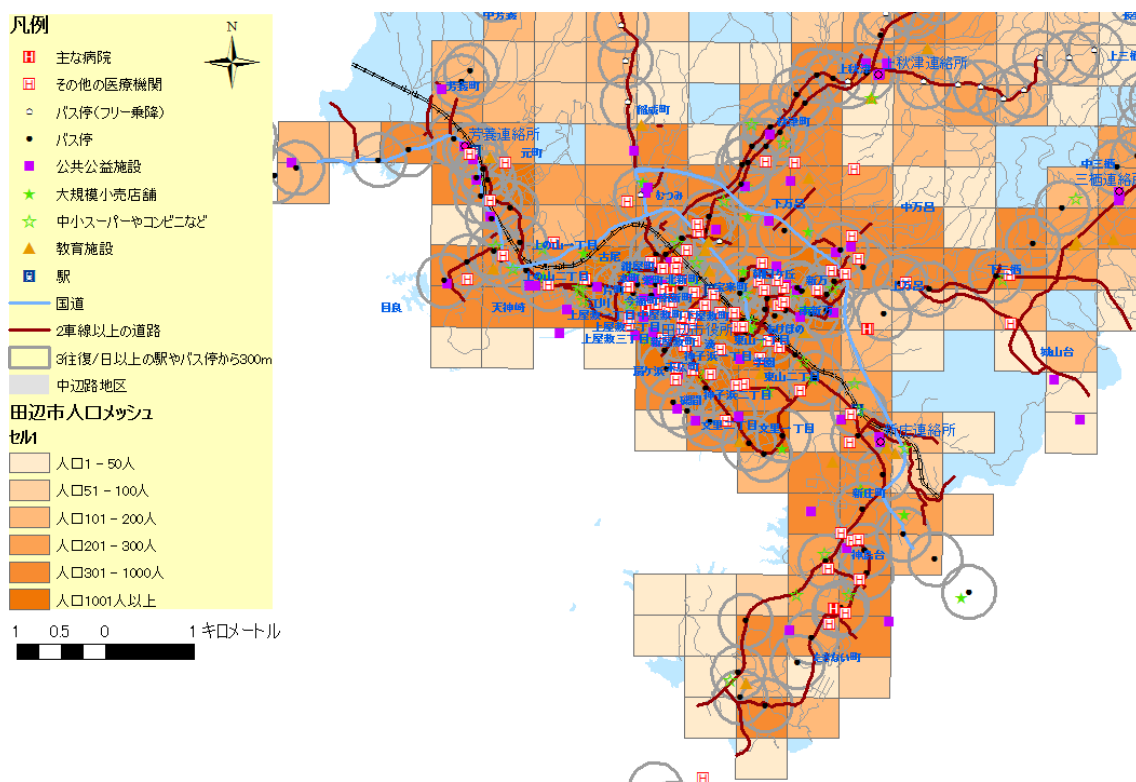


図 田辺市における公共交通空白地帯の分布 (田辺地区南部)

#### 4、課題、特筆すべき工夫等

- 2005年の新田辺市の発足により「地域交通」の課題への対応が一段と高まっている。広域合併による面積の拡大や地形的な制約もあり、バスを展開するには不利な条件が多い。しかし、特に旧町村エリアでは交通の確保＝生活課題であるので、その状況は急を要するものばかりである。
- 旧田辺市では路線バス網がカバーするエリアが多く、生活交通課題は大きくクローズアップされることは無かった。
- 高速道路のみなべ IC 延伸、南紀田辺 IC 延伸で大阪方面との高速バスも増発され、既存の JR 特急と共に紀伊田辺駅は田辺市の表玄関となっており、ほとんどの路線バスはここを基点としている
- 路線バスは基本的に駅・紀南病院・医療センターを軸に運行されている。熊野古道向けの路線バス（熊野線）は発心門王子や道の駅への延伸、栗栖川乗換えの季節便の運行など観光客の利便に応えた運行を行っている。
- 路線バスは複雑な路線運行、同じ区間でも会社によってルートが異なるなど、連携した取り組み（共同路線図、共通回数券制度など）が求められている。熊野線では明光バスと龍神バスがダイヤや時刻表表示の面で連携を行っている。（もともとこの路線が JR バスの一社運行であった）
- 公共交通利用の旅行者や市民向けに、田辺市企画広報課のホームページ上で田辺市内を走るすべての会社の路線バス&住民バスの詳細なダイヤを取得することができる。ただ、観光関係ホームページからはリンクされていない
- 現在旧町村エリアには住民バスが運行されている。
- 日本宮町では新田辺市への合併を見据え、福祉有償運送の制度を整えた

#### 5、総評

- 旧田辺市内エリアでは複雑な路線運行の整理やシンプルなルート化、共通の回数券利用などが課題である。まずは共同の路線図や時刻表の整備が必要であると考えられる。
- 旧町村エリアではスクールバス、住民バス、患者送迎バス、社協の外出支援事業などサービスが重複している部分が多いので、移送サービスの機能統合もしくは連携が課題である。また、合併した旧の市町村エリアによって提供されてる移送サービス水準にばらつきがあるものの、基本的にはサービス水準の高いものに合わせる必要がある
- 田辺市では地域交通政策が重要な課題となっているものの、現在担当している行政部局は企画広報課企画調整係の一事務分掌である。担当部局の人的、組織的な基盤強化と福祉、教育部局との密な連携が必要である。

(西川)